■峯ヶ塚古墳出土の石見型木製品■

峯ヶ塚（みねがづか）古墳は、全長 96 メートルの、２段に築かれた前方後円墳です。

くびれ部の北側には、造出し（つくしだし）を設けています。

この古墳では、史跡整備のための発掘調査によって、貴重な成果が多く得られています。

そのなかでも、後円部墳頂の発掘調査で竪穴式石室（たてあなしきせきしつ）とみられる構造が見つかり、その内部から総数 3,500 点以上の副葬品が出土したことは、特筆すべき成果です。

また、近年の大きな成果として、造出し部の西端で、残存長約 3.5 メートルある石見型（いわみがた）木製品が出土したことが挙げられます。

石見型木製品は本例を含めて 17 基の古墳で確認されていますが、大阪府内では初めての出土例であり、かつ現在知られている石見型木製品のなかで最大の資料です。

出土状況からみて、石見型木製品は造出しと前方部の接続部分に立てられていた可能性が指摘されています。

石見型木製品の形状は、儀式用の杖や旗をかたどったものと考えられ、魔除けや権威の象徴として用いられたと想定されています。

いずれにせよ、古墳の墳丘における葬送儀礼を考える上で重要な成果といえるでしょう。

本来の樹立状態を再現するため、今回の特別展では、欠損部分も含めた復元品を作成し、展示することとしました。

この大きさをぜひ、ご体感ください。